

# 龍源寺報

正月号

臨濟宗・妙心寺派	住職 松原信樹
住職 松原覺樹	
住職 松原行樹	
住職 松原行樹	
TEL	3451-1853
FAX	3451-6094

振込 00160-0-104918 東京都港区三田5丁目9-23 (郵便番号 108-0073)

Email: ryugenji@ryigenji.com

URL: http://www.ryugenji.com

## 明日へ向かって

別れや意図しない病気の宣告を突然受けることがある。自分自身の力ではどうすることもできなくともやりきれない気持ちになる。自信满满で「私が私の力だけで生きている」とずっと思っていたことが、自分の力では、どうすることもできない体験によつて、悩みに悩んだ結果、ふとしたことから、実は多くの縁によつて生かされていたといふことに気づき、最後には、大いなるものに委ねるしかないという気持ちに変わる。こういう体験を、仏教では、回向（方向を転じて向かう、悟りに向かつて進むという意味）といい、妙心寺では、「おかげさまの心になる」という。父も心臓の大手術をしたときには、そういった気持ちで挑んだし、私自身もこの一、二年の間に、多くのかけがえのない人達とお別れをしなければならなかった時、しばしば、実感したことだった。

ある日の朝、色々なことを受け入れることが出来ずに、とても悲しい気持ちでいた。しかし、無情にも境内の木漏れ日はとてもきれいだった。太陽が昇り、明日が必ず来るといふことを、当たり前のことだが再確認し、明日に向かつてひたむきに精一杯生きていくといふことの大切さを実感し

た。そういえば、北軽井沢の日月庵で思ったことがある。私は、決まって五月の中旬に入山すると、山の中で咲いている桜は、誰にも見られないで、きれいに咲いている。一方、街の中や小学校の校庭の前に咲いている桜は「きれいだ。きれいだ」と言われながら、写真まで撮られ、人に褒められながら咲いている。双方の桜とも二、三日のズレはあるかもしれないが、毎年同じ時期につぼみをつけ、花を咲かせ、散らせていく。人に見られている・見られていない関係なく、なすべき自分の仕事を淡々と行っている桜の姿に真理の一片を見た。

柴山全慶老師に次のような詩がある。

花は、黙って咲き、黙って散って行く。そうして再び枝に帰らない。けれども、その一時一所に、この世のすべてを托している。一輪の花の声であり、一枝花の真である。永遠にほろびぬ生命のよるこびが、悔なくそこに輝いている。

大いなるものに身をゆだね、今までの人生を振り返り、ひたむきに自信をもって、精一杯歩んでいくことで、時期がくると自然と花が開くように、明日は開かれる。どうか、皆様良いお年でありますように。

— 追悼 — 米沢涉游和尚・足利市 行道山浄因寺住職(泰道和尚の弟子)

平成二十二年は、師父である哲明和尚の遷化に続き、兄弟子の米沢涉游和尚とお別れをしなければならなかった。十月十六日のことで、私は、北軽井沢の日月庵で突然の訃報を聞いた。心臓発作であった。

米沢涉游和尚は、栃木県足利市の行道山浄因寺の住職である。浄因寺は、七十六年に行基上人が開山となつて建立された寺で、「関東の高野山」とも呼ばれている。断崖絶壁に建立された寺は、階段を三六五段上がらなくては、本堂に到着せず、宅急便も届けてくれない厳しい環境にある寺だ。その寺の住職を、昭和五十四年から務めていた。「ゆっさん」との愛称で、龍源寺のお檀家さんも、知っている方が多いと思う。

「ゆっさん」は、枯淡で禅僧らしいまっすぐな性格だった。毎年龍源寺で行われる七月十日の施餓鬼法要や十二月一日の開山忌法要を終えた席で、大好きな酒を泰道和尚・哲明和尚・寺族・お手伝いの方々

と台所で飲み、酩酊している「ゆっさん」に、亡くなった私のおばあさんは、いつも「はい、もう一杯」といつて、微笑みながら一升瓶を差し向け、袖餅子と漬け物を、つまみにして酒を飲ませていた。小さい時にお母さんを亡くした「ゆっさん」は、おばあさんのことを、「自分のお母さん」だと思ひ、泰道老漢のことを父だと思つていた。ごまかして、体面を保つより、愚直に務めを果たす実直な「ゆっさん」の姿に、私は小さな時から帰依の念を生じていた。人のことを大切に思う、まじめな気持ちと暖かい心は、言葉は強く厳しかったが、空虚な言葉があふれている今の時代では、貴いものだったし、そういったものは、学

問では得られない。むろん、学識や教養などどうでもよいと言おうとしているのではない。学問をしない僧侶には、きちんとした措置は講じられるべきであろう。だが、そのことは、しばらく置いて、私が在家の身なら、是非こういう人にお経を読んでもらいたいと思う人だった。まだまだ、教えてもらいたいことがたくさんあった。足利・月谷町の人々は、「ゆっさん」の事を「行道の和尚」と呼び、遺徳が語り継がれている。どういう因縁か、本葬が執り行われた十月二十五日は、「ゆっさん」七十歳の誕生日であった。

龍源寺への交通の便(地下鉄)

- 都営三田線(目黒または三田、南北線は白金高輪駅下車。徒歩五分)
- 2番出口から地上に出ると案内看板に「龍源寺」名あり

龍源寺への交通の便(都バス)

- 田 87 渋谷駅 — 田町駅 魚ラン坂下車

柳 緑 本年は喪中のため、新年のご挨拶は控えさせていただきます。

花 紅 十二月一日に龍源寺を開いた越溪禅師の法要である開山忌を終え、無事、新年を迎える準備が整いました。この一、二年は本当に忙

しく、お休みは、ほとんどありませんでした。今日は、いくつもお伝えしたいことがございます。いつでも、お気軽にご相談ください。▼お檀家様で、お葬式をだされる場合、御存知の葬儀社がない方は、泰道和尚・哲明和尚の葬儀に使用した葬儀社を紹介させていただきます。いざ、ご家族が亡くなると、なすべき事がたくさんあります。慌ただしいのが現状です。私もこの二年間で、祖父・祖母・父と三人の葬儀をだしました。仏事に慣れていく僧侶の私でさえ、非常に慌ただしい体験をしました。もし、お葬式をだされる場合、僧侶がいらないとお葬式ができないゆえに、まず、一番はじめに龍源寺にお電話を入れていただきますと思います。龍源寺本堂もしくは、花園会館を使用してお葬式・家族葬・密葬も執り行うことができます。(本

堂・花園会館使用の際は、指定業者となります。▼年忌法要を行う場合、本堂が二階にあるため、ご高齢の方は階段の上り下りが大変です。一階の書院を使って法要を行うことが出来ます。広さと定例会の関係上、日曜日に関り十五名までご利用になれます。▼諸々の理由により、お墓を持ち、供養し続けることが難しい時代になっているようです。渋谷区広尾にある東北寺内龍源寺墓地・合同船は、墓地の継承者を気にしなくてもよい永代供養塔です。龍源寺の規則を守っていただければ、どなたでもこのお墓を使用できます。▼総代の北村行夫弁護士さんのおかげで、借地権を買い戻すことになり、境内地が約十坪広くなります。将来は、本堂の裏地に『大般若経』を納める経蔵を建立します。しばらくは、駐車場などにして、お寺に体力をつけていきたいと思えます。▼一月の大般若の祈祷会は、例年の如く行います。第一土曜日が元旦になりますので、第二週の一月八日、十一時より厳修致します。その後、十三時三十分より坐禅会となります。一月の午前中の禅会はお休みです。

▼五年間務めた、臨済会『法光』の編集長を交代することになりました。後任は哲明和尚に布教で師事した梅洞寺副住職さんをお願いすることになりました。もちろん、編集部には籍を置き、色々な提案をしていきたいと思っております。▼少しづつ来年六月に行われる泰道和尚・哲明和尚・祖母志すの法要の準備に入っています。先日、平林寺の系原圓應老師からいただいた「ここで修行したことを基本にがんばりなさい」との言葉を噛みしめて、精進していきたいと思えます。弟の佛母寺住職・覚樹和尚も、寺の興隆に励んでおります。娘が誕生した中での学問と住職の両立は大変だと思えますが、彼なりにがんばっているようです。除夜の鐘を打つとのこと、大晦日に佛母寺においでください。もう一人の弟である行樹和尚も戸塚でがんばっております。息子も五才になります。母は、なかなか疲れがとれないようで、無理をしないようにと言いつつ聞かせています。いつか、檀信徒の皆様と二緒にゆつくりと巡礼の旅にでも出かけたいと思っております。